

平成24年度 農薬等安全性確保強化実態調査事業
(農薬登録における作物グループ化の検討のための試験委託事業)

試料調製明細書・すいか
(日植防茨城、日植防高知、日植防宮崎)

一般社団法人 日本植物防疫協会

平成24年度 農薬登録における作物グループ化検討試験明細書

(試験期間 24年6月 ～ 24年7月)

1. 被験物質

(1) 一般名・剤型

- ①ビメトロジン(チェス)顆粒水和剤
- ②シモキサニル・ファモキサドン(ホライズン)ドライフロアブル
- ③スピノサド(スピノエース)顆粒水和剤
- ④ボスカリド(カンタス)ドライフロアブル
- ⑤シアゾファミド(ランマン)フロアブル
- ⑥ピラクロストロビン(シグナム)WDG
- ⑦シフルフェナミド・トリフルミゾール(パンチョ TF)顆粒水和剤
- ⑧クロルフェナビル(コテツ)フロアブル
- ⑨エトキサゾール(バロック)フロアブル
- ⑩アクリナトリン(アーデント)水和剤
- ⑪シエノピラフェン(スターマイト)フロアブル
- ⑫シフルメトフェン(ダニサラバ)フロアブル
- ⑬フェンプロパトリン(ロディー)乳剤
- ⑭クレソキシムメチル(ストロビー)フロアブル

(2) 有効成分名及び成分含有率

- | | | |
|------------|---------------|-------|
| ①ビメトロジン | 50% | |
| ②シモキサニル | 30%・ファモキサドン | 22.5% |
| ③スピノサド | 25% | |
| ④ボスカリド | 50% | |
| ⑤シアゾファミド | 9.4% | |
| ⑥ピラクロストロビン | 6.7% | |
| ⑦シフルフェナミド | 3.4%・トリフルミゾール | 15% |
| ⑧クロルフェナビル | 10% | |
| ⑨エトキサゾール | 10% | |
| ⑩アクリナトリン | 3% | |
| ⑪シエノピラフェン | 30% | |
| ⑫シフルメトフェン | 20% | |
| ⑬フェンプロパトリン | 10% | |
| ⑭クレソキシムメチル | 44.2% | |

(3) 被験物質のLot No.

- ①SIK2AWG007 ②SAG019 ③SOK-10G ④K1Z01 ⑤SIK-04
⑥K1D01 ⑦SBA-02G ⑧IOM01 ⑨1521N ⑩AOF08
⑪OAF030 ⑫2A90 ⑬NB203 ⑭H1J028

2. 農作物名 すいか

品種名 アグネス

3. 試験実施機関名

一般社団法人 日本植物防疫協会 茨城研究所

試験圃場所在地

茨城県牛久市結束町535番地

4. 試験責任者氏名

森田 久孝、小川 和己、宮川 直也、後藤直人、小林照二

5. 土性

砂土・砂壤土・壤土・埴壤土・埴土(○を付す)

減水深

— cm/日

6. 過去1年間に作付けした作物および使用した農薬 (別紙としても構いません)

別紙1.に記載

7. 栽培概要

播種期、移植期、施肥の種類・量・時期、樹齢、栽植密度(畝間・株間)・株数(/10a)、水管理等、
被覆資材(茶は寒れい鈔番号)、いちご・おうとう等の被覆時期、茶の寒れい鈔・トナリ栽培の被覆時期を記載す

露地・施設の別

施設(ガラスハウス)

有袋・無袋の別

—

播種：平成24年3月中旬、定植：5月2日

栽植密度：畝間250cm、株間60cm、1条植え、3本仕立て (マルチ被覆)、約660株/10a

施肥(10a当たり)：平成24年3月28日堆肥 1,000kg、4月4日配合594(5-9-4) 30kg、

4月4日苦土重焼燐 14kg、5月23日くみあい尿素複合液肥1号800倍×10分

その他の管理は、慣行に従った。

収穫適期(適期)：7月1日～7月12日

8. 生育ステージ

試験計画書に指定された生育ステージ
を記入して下さい。

—

9. 被験物質以外に使用した農薬 (別紙としても構いません)

平成24年5月 7日 アドマイヤー顆粒水和剤 10000倍・ゴッツA 1000倍

5月15日 パスタ液剤 100倍 通路散布

5月22日 ロブラール水和剤 1000倍・モスピラン水溶剤 4000倍

6月11日 ゴッツA 500倍・モスピラン水溶剤 3000倍

6月14日 アドマイヤー顆粒水和剤 10000倍・ロブラール水和剤 1000倍

10. 試験区

(1)1試験区の面積および(株)数

処理区A：36㎡(4.8m×2.5m×3畝) 24株、処理区B：36㎡(4.8m×2.5m×3畝) 24株、

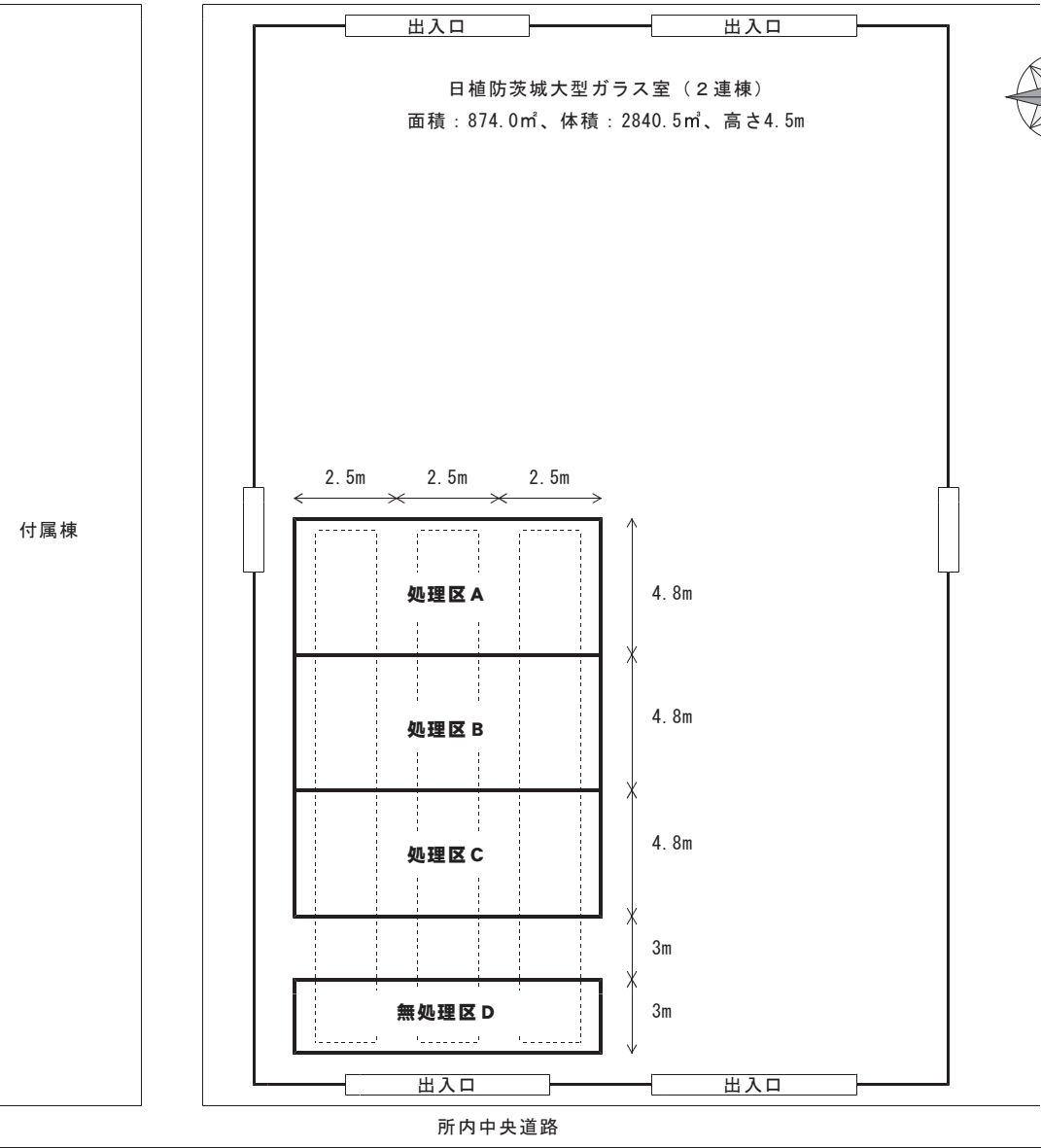
処理区C：36㎡(4.8m×2.5m×3畝) 24株、無処理区D：22.5㎡(3m×2.5m×3畝) 15株

(2)施設の場合、面積・容積・高さ

面積：874.0㎡、容積：2840.5m³、高さ4.5m

(3)試験区の配置図 (試験区全体および周辺農地等の状況がわかるように記入して下さい。記入できない場合は別紙としてもかまいません)

- ア) 下口内の点と点を結び、処理区および無処理区の配置関係を作図して下さい。果樹1樹は点を○で囲んで表し、必要に応じて枝の伸長方向を記載して下さい。
- イ) 試験区間および試験区と無処理区間の距離を記入して下さい。
- ウ) 圃場の畝方向、方位および圃場の傾斜方向を記入して下さい。水田は給水口および排水口を記入して下さい。



処理区 A : 36.0㎡ (4.8m×2.5m×3畝) 24株
処理区 B : 36.0㎡ (4.8m×2.5m×3畝) 24株
処理区 C : 36.0㎡ (4.8m×2.5m×3畝) 24株
無処理区 D : 22.5㎡ (3m×2.5m×3畝) 15株

1 1. 処理方法（下のA～G欄へは該当する処理日に「○」あるいは剤型を記載する）

区 分 処理月日	A 区	B 区	C 区	D 区	処理濃度	処 理 量			処理時の生育 ステージ	処理方法（概略）
						1 0 a当	試験区当（農薬量/散布量/面積）	実際秤量した 農薬量/薬液量		
H24年6月12日	チェス			無処理	5000倍	231L	1.66g/8.3L/36㎡	2.0g/10.0L	果実肥大期 （草丈約20cm）	茎 葉 散 布 （混用）
	ランマン				1000倍		8.3ml/8.3L/36㎡	10.0ml/10.0L		
6月19日	チェス				5000倍	261L	1.88g/9.4L/36㎡	2.2g/11.0L	果実肥大期 （草丈約20cm）	茎 葉 散 布 （混用）
	ランマン				1000倍		9.4ml/9.4L/36㎡	11.0ml/11.0L		
	ホライズン				2500倍		3.76g/9.4L/36㎡	4.4g/11.0L		
	カンタス				1000倍		9.4g/9.4L/36㎡	11.0g/11.0L		
6月26日	チェス				5000倍	275L	1.98g/9.9L/36㎡	2.2g/11.0L	果実成熟期 （草丈約20cm）	茎 葉 散 布 （混用）
	ランマン				1000倍		9.9ml/9.9L/36㎡	11.0ml/11.0L		
	ホライズン				2500倍		3.96g/9.9L/36㎡	4.4g/11.0L		
	カンタス				1000倍		9.9g/9.9L/36㎡	11.0g/11.0L		
	スピノエース				5000倍		1.98g/9.9L/36㎡	2.2g/11.0L		
7月2日	チェス				5000倍	275L	1.98g/9.9L/36㎡	2.2g/11.0L	収穫期 （草丈約20cm）	茎 葉 散 布 （混用）
	ランマン				1000倍		9.9ml/9.9L/36㎡	11.0ml/11.0L		
	ホライズン				2500倍		3.96g/9.9L/36㎡	4.4g/11.0L		
	カンタス				1000倍		9.9g/9.9L/36㎡	11.0g/11.0L		
	スピノエース				5000倍		1.98g/9.9L/36㎡	2.2g/11.0L		

区 分 処理月日	処理方法の詳細、 処理時の環境条件等	処理時の使用器具（機械）、樹幹塗布、湛水散布時の水管理、 土壌混和時の深度・土壌水分、種子消毒時の水温・液比等	処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況	
			特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する	
H24年6月12日	背負式バッテリー動噴（丸山 MSB111-A）に、1頭口コーンノズル（狭角コーン）をつけ、6月12日は10L、それ以降は11Lを散布機に入れて株全体へ均一に散布した。		時刻 15：30 ～ 15：45	天候：雨（日中雨）、風の影響なし。
6月19日			時刻 15：00 ～ 15：15	天候：曇り（日中晴れ時々雲り）、風の影響なし。
6月26日			時刻 11：40 ～ 11：55	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。
7月2日			時刻 16：00 ～ 16：15	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。

（1）展着剤

使用せず

使用した区番号

展着剤名

濃度または量

（2）備考

試験薬剤の散布時には、薬液の飛散による無処理区の汚染を防止するため、試験区間をポリフィルムで約1.8mの高さまで遮蔽した。

(H24グループ化:すいか)

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会茨城研究所

区 分 処理月日	A 区	B 区	C 区	D 区	処理濃度	処 理 量			処理時の生育 ス テ ー ジ	処理方法（概略）
						1 0 a当	試験区当（農薬量/散布量/面積）	実際秤量した 農薬量/薬液量		
H24年6月19日		ストロビー		無処理	2000倍	261L	4.7ml/9.4L/36㎡	6.0ml/12.0L	果実肥大期 （草丈約20cm）	茎 葉 散 布 （混用）
		シグナム			1500倍		6.27g/9.4L/36㎡	8.0g/12.0L		
		ホライズン			2500倍		3.76g/9.4L/36㎡	4.8g/12.0L		
6月26日		ストロビー			2000倍	275L	4.95ml/9.9L/36㎡	6.0ml/12.0L	果実肥大期 （草丈約20cm）	茎 葉 散 布 （混用）
		シグナム		1500倍	6.6g/9.9L/36㎡		8.0g/12.0L			
		ホライズン		2500倍	3.96g/9.9L/36㎡		4.8g/12.0L			
		パンチョTF		1360倍	7.28g/9.9L/36㎡		8.82g/12.0L			
		コテツ		2000倍	9.9ml/9.9L/36㎡		6.0ml/12.0L			
7月 2日		ストロビー			2000倍	275L	4.95ml/9.9L/36㎡	6.0ml/12.0L	収穫期 （草丈約20cm）	茎 葉 散 布 （混用）
		シグナム		1500倍	6.6g/9.9L/36㎡		8.0g/12.0L			
		ホライズン		2500倍	3.96g/9.9L/36㎡		4.8g/12.0L			
		パンチョTF		1360倍	7.28g/9.9L/36㎡		8.82g/12.0L			
		コテツ		2000倍	9.9ml/9.9L/36㎡		6.0ml/12.0L			

区 分	処理方法の詳細、 処理時の使用器具（機械）、樹幹塗布、湛水散布時の水管理、 処理時の環境条件等	処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況	
処理月日	処理時の環境条件等	特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する	
H24年6月19日	背負式バッテリー動噴（丸山 MSB111-A）に、1頭口コーンノズル（狭角コーン）をつけ、各回12Lを散布機に入れて株全体へ均一に散布した。	時刻 15：20 ～ 15：35	天候：曇り（日中晴れ時々曇り）、風の影響なし。
6月26日		時刻 11：20 ～ 11：35	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。
7月 2日		時刻 15：30 ～ 15：45	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。

(1) 展着剤 使用せず

使用した区番号

展着剤名

濃度または量

(2) 備考

試験薬剤の散布時には、薬液の飛散による無処理区の汚染を防止するため、試験区間をポリフィルムで約1.8mの高さまで遮蔽した。

(H24グループ化:すいか)

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会茨城研究所

区 分 処理月日	A 区	B 区	C 区	D 区	処理濃度	処 理 量			処理時の生育	処理方法（概略）
						1 0 a当	試験区当(農薬量/散布量/面積)	実際に秤量した 農薬量/薬液量	ステージ	
H24年6月5日			アーデント	無処理	1000倍	200L	7.2g/7.2L/36㎡	8.0g/8.0L	果実肥大期 (草丈約20cm)	茎葉散布
6月12日			アーデント		1000倍	231L	8.3g/8.3L/36㎡	10.0g/10.0L	果実肥大期 (草丈約20cm)	茎葉散布 (混用)
			ロディー	1000倍	8.3ml/8.3L/36㎡		10.0ml/10.0L			
6月19日			アーデント		1000倍	261L	9.4g/9.4L/36㎡	11.0g/11.0L	果実肥大期 (草丈約20cm)	茎葉散布 (混用)
			ロディー	1000倍	9.4ml/9.4L/36㎡		11.0ml/11.0L			
6月26日			アーデント		1000倍	275L	9.9g/9.9L/36㎡	12.0g/12.0L	果実成熟期 (草丈約20cm)	茎葉散布 (混用)
			ロディー	1000倍	9.9ml/9.9L/36㎡		12.0ml/12.0L			
			パロック	2000倍	4.95ml/9.9L/36㎡		6ml/12.0L			
			ダニサラバ	1000倍	9.9ml/9.9L/36㎡		12.0ml/12.0L			
7月2日			アーデント		1000倍	275L	9.9g/9.9L/36㎡	12.0g/12.0L	収穫期 (草丈約20cm)	茎葉散布 (混用)
			ロディー	1000倍	9.9ml/9.9L/36㎡		12.0ml/12.0L			
			パロック	2000倍	4.95ml/9.9L/36㎡		6ml/12.0L			
			ダニサラバ	1000倍	9.9ml/9.9L/36㎡		12.0ml/12.0L			
			スターマイト	2000倍	4.95ml/9.9L/36㎡		6.0ml/12.0L			

区 分	処理方法の詳細、 処理時の環境条件等	処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況	
処理月日	処理時の使用器具（機械）、樹幹塗布、湛水散布時の水管理、 土壌湿和時の深度・土壌水分、種子消毒時の水温・液比等	特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する	
H24年6月5日	背負式バッテリー動噴（丸山 MSB111-A）に、1頭口コーンノズル（狭角コーン）をつけ、6月5日は8L、6月12日は10L、6月19日が11L、それ以降は12Lをそれぞれ散布機に入れ、株全体へ均一に散布した。	時刻 11：45 ～ 12：00	天候：曇り（日中晴れ時々雲り）、風の影響なし。
6月12日		時刻 16：00 ～ 16：15	天候：雨（日中雨）、風の影響なし。
6月19日		時刻 15：50 ～ 16：05	天候：曇り（日中晴れ時々雲り）、風の影響なし。
6月26日		時刻 11：00 ～ 11：15	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。
7月 2日		時刻 14：50 ～ 15：05	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。

(1) 展着剤 使用せず

使用した区番号

展着剂名

濃度または量

(2) 備考

試験薬剤の散布時には、薬液の飛散による無処理区の汚染を防止するため、試験区間をポリフィルムで約1.8mの高さまで遮蔽した。

12. 試料採取（試料番号は試料送付時に「送付カード」（別添様式）に記入したものを記載する）

区 分 採取月日	A 区 試料番号	B 区 試料番号	C 区 試料番号	D 区 試料番号	試料採取時刻と天候	試料採取順（区番号順）	試料送付量	試料送付月日
2012年7月3日	A－1	B－1	C－1	D	D区 時刻：13:40 ～ 13:45 天候：曇り	D→C→B→A	A－1：5個／9.6kg B－1：5個／10.0kg C－1：5個／10.1kg D：5個／10.6kg	7月 3日
					C区 時刻：13:55 ～ 14:00 天候：曇り			
					B区 時刻：14:10 ～ 14:15 天候：曇り			
					A区 時刻：14:25 ～ 14:30 天候：曇り			
7月 4日				D (追加)	時刻：16:05 ～ 16:10 天候：晴れ	D	5個／9.0kg	7月 4日
7月5日	A－2	B－2	C－2		C区 時刻： 9:30 ～ 9:35 天候：晴れ	C→B→A	A－2：5個／9.6kg B－2：5個／9.6kg C－2：5個／9.7kg	7月 5日
					B区 時刻： 9:45 ～ 9:50 天候：晴れ			
					A区 時刻：10:05 ～ 10:10 天候：晴れ			
7月9日	A－3	B－3	C－3		C区 時刻： 9:50 ～ 9:55 天候：晴れ	C→B→A	A－3：5個／10.1kg B－3：5個／9.9kg C－3：5個／10.3kg	7月 9日
					B区 時刻：10:15 ～ 10:20 天候：晴れ			
					A区 時刻：10:30 ～ 10:35 天候：晴れ			

区 分 採取月日	送付試料について（該当項目に○を付し、必要に応じてその原因を記載する）
7月 3日	1. 試料の大きさは（やや大きい ☒ 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある）2. 熟期は（やや早い ☒ 通常 やや過熟） 3. その他（ ） 4. 原因
7月 4日	1. 試料の大きさは（やや大きい ☒ 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある）2. 熟期は（やや早い ☒ 通常 やや過熟） 3. その他（ ） 4. 原因
7月 5日	1. 試料の大きさは（やや大きい ☒ 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある）2. 熟期は（やや早い ☒ 通常 やや過熟） 3. その他（ ） 4. 原因
7月 9日	1. 試料の大きさは（やや大きい 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある）2. 熟期は（やや早い 通常 やや過熟） 3. その他（ ） 4. 原因

(1) 試料採取方法

使用した器具（機械）、採取方法の詳細、
採取後乾燥等のための輸送方法を記載

試験区の境界部（南北）をはずし、偏りがないように区全体から鋏を用いて採取し、その都度清浄なプラスチック製のかごに入れた。

(2) 採取後の調製・梱包方法

試料採取後の加工、水洗い、根等の除去、風乾、乾燥、
脱穀・糠すり等の方法、雨後の試料調製方法および試料の梱包方法を記載

1個ごとに包装紙に包んでポリ袋に入れ、ポリエチレン製のクッションを巻き付けて段ボール箱にいれ、裁断した紙を詰めて動かないようにして箱の内側に試験区ラベル、外側に梱包シールを貼り付けて梱包した。箱は2箱用い、3個入りと2個入りとした。

(3) 試料送付先

分析機関： 株式会社化学分析コンサルタント

(4) 試料の輸送方法

到着日指定、温度指定、
輸送会社等

ヤマト運輸の冷蔵便で、いずれも到着を送付翌日に指定して送付した。

(5) 備考

観測地点および試料調製場所: 茨城県牛久市結束町535番地 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所

(24年)

[illegible]

別紙1. 過去 1 年間に作付けした作物および使用した農薬

かぼちゃ:	平成23年	6月14日, 28日, 7月5日	ウララDF顆粒水和剤 2000倍
		6月17日	トリガード液剤 1000倍・サンヨール 500倍
		6月23日	パンチョTF顆粒水和剤 2000倍・ハチハチ乳剤 1000倍
		6月28日, 7月5日, 7月28日	アフェットフロアブル 2000倍
さやいんげん:	平成23年	9月20日	アフアーム乳剤 2000倍
		10月19日	コロマイト乳剤 1500倍・ゴッツA 500倍
		10月20日	トップジンM水和剤 700倍
		10月28日	コロマイト乳剤 1500倍・ゴッツA 500倍
		11月 4日	トップジンM水和剤 1500倍・アフアーム乳剤 2000倍・粘着くん液剤 100倍

(H24グループ化:すいか)

別紙2. 試験風景

写真1. ハウス全景



写真2. 散布状況 (ポリフィルムによる遮蔽より奥:無処理区)



写真3. A区第1回散布時の果実の大きさ



写真4. A区第2回散布時の果実の大きさ



写真5. A区第3回散布時の果実の大きさ



写真6. A区第4回散布時の果実の大きさ



(H24グループ化:すいか)

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会茨城研究所

写真7. B区第1回散布時の果実の大きさ



写真8. B区第2回散布時の果実の大きさ



写真9. B区第3回散布時の果実の大きさ



写真10. C区第1回散布時の果実の大きさ



写真11. C区第2回散布時の果実の大きさ



写真12. C区第3回散布時の果実の大きさ



(H24グループ化:すいか)

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会茨城研究所

写真13. C区第4回散布時の果実の大きさ



写真14. C区第5回散布時の果実の大きさ



写真15. 試料採集の状況1



写真16. 試料採集の状況2



写真17. 無処理区Dの試料の果実の大きさ



(H24グループ化:すいか)

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会茨城研究所

写真18. 処理区Aの1日後試料の果実の大きさ



写真19. 処理区Aの3日後試料の果実の大きさ

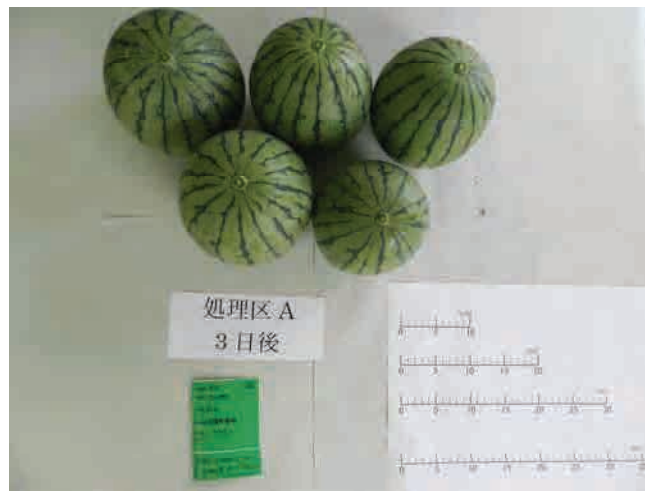


写真20. 処理区Aの7日後試料の果実の大きさ



写真21. 処理区Bの7日後試料の果実の大きさ



写真22. 処理区Bの3日後試料の果実の大きさ



写真23. 処理区Bの7日後試料の果実の大きさ



(H24グループ化:すいか)

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会茨城研究所

写真24. 処理区Cの1日後試料の果実の大きさ



写真26. 処理区Cの7日後試料の果実の大きさ



※処理区Cの3日後試料の果実の大きさの写真は無し。

(24グループ化 (高知) すいか)

平成24年度 農薬作物残留量分析試料調製明細書

(試験期間 24年 6月 ～ 24年 7月)

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会 高知試験場

1. 被験物質 (処理区A)

- (1) 一般名・剤型 ①ビメトロシ^ン(チェス^ン顆粒水和剤), ②シモキサル(ホライズ^ント^ンライフロアブル), ③スビノサド^ン(スビノ^ンエース^ン顆粒水和剤), ④ホスカリト^ン(カンタスト^ンライフロアブル), ⑤シアゾ^ンファミト^ン(ランマンフロアブル)。
(2) 有効成分名及び成分含有率 ①ビメトロシ^ン 50.0%, ②シモキサル 30.0%, ③スビノサド^ン 25.0%, ④ホスカリト^ン 50.0%, ⑤シアゾ^ンファミト^ン 9.4%。
(3) 被験物質のLot No. ①SIK2AWG007, ②SAG019, ③SOK-10G, ④KIZ01, ⑤SIK-04。

被験物質 (処理区B)

- (1) 一般名・剤型 ⑥クロキシメチル(ストロビ^ンフロアブル), ⑦ビラクロストロピ^ン(シグ^ンナムWDG), ⑧ファモキサト^ン(ホライズ^ント^ンライフロアブル), ⑨シフルフェナミド^ン(ハンチョ^ンTE顆粒水和剤), ⑩クロルフェナピ^ル(コテツフロアブル)。
(2) 有効成分名及び成分含有率 ⑥クロキシメチル 44.2%, ⑦ビラクロストロピ^ン 6.7%, ⑧ファモキサト^ン 22.5%, ⑨シフルフェナミド^ン 3.4%, ⑩クロルフェナピ^ル 10.0%。
(3) 被験物質のLot No. ⑥HJJ028, ⑦K1D01, ⑧SAG019, ⑨SBA-02G, ⑩IOM01。

被験物質 (処理区C)

- (1) 一般名・剤型 ⑪エトキサゾ^{ール}(ハ^ンロックフロアブル), ⑫アクリナトリ^ン(アーテ^ント水和剤), ⑬シエビ^ンラフェ^ン(スターマイト^ンフロアブル), ⑭シフルメトフェ^ン(カ^ンニサラハ^ンフロアブル), ⑮フェン^ンロバ^ントリ^ン(ロテ^ンイー^ン乳剤)。
(2) 有効成分名及び成分含有率 ⑪エトキサゾ^{ール} 10.0%, ⑫アクリナトリ^ン 3.0%, ⑬シエビ^ンラフェ^ン 30.0%, ⑭シフルメトフェ^ン 20.0%, ⑮フェン^ンロバ^ントリ^ン 10.0%。
(3) 被験物質のLot No. ⑪1521N, ⑫A0F08, ⑬0AF030, ⑭2A90, ⑮NB203。

2. 農作物名 すいか

品種名 紅こだま

3. 試験実施機関名 一般社団法人 日本植物防疫協会 高知試験場

試験圃場所在地 高知県香南市野市町深淵本田1211

4. 試験責任者氏名 松村 栄一、内藤 寛、奴田原 誠克、森 克彦、川北 充彦、谷山 頼清

5. 土性 砂土・砂壤土・壤土・埴壤土・埴土・軽埴土 (○を付す) 減水深 — cm/日

6. 過去1年間に作付けした作物および使用した農薬 (別紙としても構いません)

別紙に記載。

7. 栽培概要 播種期、移植期、施肥の種類・量・時期、樹齢、栽植密度 (畝間・株間)・株数(/10a)、水管理等、被覆資材 (茶は寒れい紗番号)、いちご・おうとう等の被覆時期、茶の寒れい紗・トンネル栽培の被覆時期を記載する

露地・施設の別 施設栽培 有袋・無袋の別 —

播種：平成24年4月18日, 定植：5月11日, 畝幅：140cm, 株間：40cm, 1条植,

約1800株/10a, 施肥：平成24年5月10日 苦土石灰 100kg/10a, こうち園芸ペレット (6-8-4)

67kg/10a, マル^ン栽培, その他管理は慣行に従った。

人工交配：6月1日～6月7日

収穫期間 (適期)：平成24年7月上旬

8. 生育ステージ 試験計画書に指定された生育ステージ — を記入して下さい。

9. 被験物質以外に使用した農薬 (別紙としても構いません)

別紙に記載。

10. 試験区

- (1) 1試験区の面積および本 (株) 数 処理区A, B, C : 39.2m², 70株
無処理区D : 22.4m², 40株

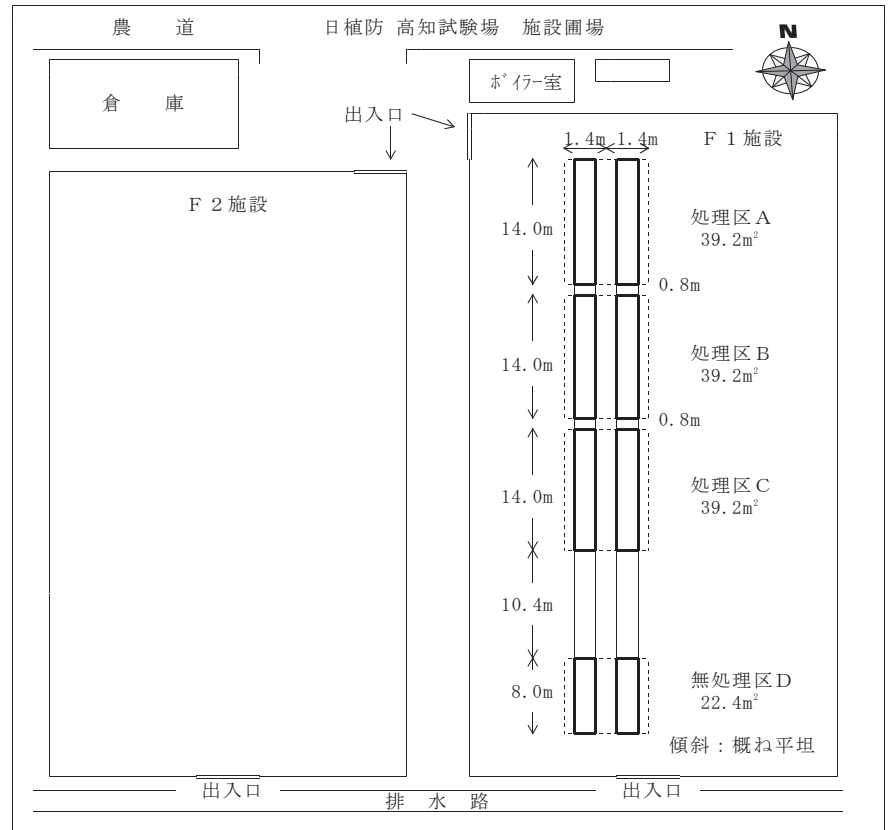
- (2) 施設の場合、面積・容積・高さ 面積：986m², 容積：2909m³, 高さ：3.9m

- (3) 試験区の配置図 (試験区全体および周辺農地等の状況がわかるように記入して下さい。記入できない場合は別紙としても構いません)

ア) 下口内の点と点を結び、処理区および無処理区の配置関係を作図して下さい。果樹1樹は点を○で囲んで表し、必要に応じて枝の伸長方向を記載して下さい。

イ) 試験区間および試験区と無処理区との距離を記入して下さい。

ウ) 圃場の畝方向、方位および圃場の傾斜方向を記入して下さい。水田は給水口および排水口を記入して下さい。



試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会 高知試験場

1 1. 処理方法（下のA～G欄へは該当する処理日に「○」あるいは剤型を記載する）

[illegible][illegible]

濃度または量 —

(2) 備考 一

(24-グループ化 (高知) すいか)

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会 高知試験場

11. 処理方法 (下のA～G欄へは該当する処理日に「○」あるいは剤型を記載する)

区 分 処理月日	A 区	B 区	C 区	D 区	E 区	処 理 濃 度	処 理 量		処理時の生育 ステージ	処理方法 (概略)
							10a当	試験区当(農薬量/散布量/面積)		
H24年 6月19日		⑥, ⑦, ⑧		無処理区		⑥2000倍, ⑦1500倍, ⑧2500倍	283L	⑥5.55mL, ⑦7.4g /11.1L/39.2㎡ ⑧4.44g	果実肥大期	茎葉散布
6月26日		⑥, ⑦, ⑧, ⑨, ⑩				⑥2000倍, ⑦1500倍, ⑧2500倍, ⑨1360倍, ⑩2000倍	283L	⑥5.55mL, ⑦7.4g, ⑧4.44g, ⑨8.16g /11.1L/39.2㎡ ⑩5.55mL	成熟期	茎葉散布
7月 2日		⑥, ⑦, ⑧, ⑨, ⑩				⑥2000倍, ⑦1500倍, ⑧2500倍, ⑨1360倍, ⑩2000倍	283L	⑥5.55mL, ⑦7.4g, ⑧4.44g, ⑨8.16g /11.1L/39.2㎡ ⑩5.55mL	収穫期	茎葉散布
月 日										
月 日										
月 日	⑥: クレソキシムメチル(ストロビーフロアブル) ⑦: ビラクロストロビン(シクナムWDG) ⑧: ファモキサトロン(ホライズントライフロアブル) ⑨: シフルフェナミド(ハントフォTF顆粒水和剤) ⑩: クロルフェナピル(コテツフロアブル)									
月 日										
月 日										
月 日										
月 日										

区 分 処理月日	処理方法の詳細、 処理時の環境条件等	処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況		
	処理時の使用器具(機械)、樹幹塗布、灌水散布時の水管理、 土壌混和時の深度・土壌水分、種子消毒時の水温・液比等	特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する		
H24年 6月19日	背負式バッテリー噴霧機(丸山製作所 MSB111-A)にキョウカクコンノズル1頭口を装着し均一に散布。	処理開始時刻; 10:30	処理時の天候: 雨	当日の天候: 雨
6月26日	背負式バッテリー噴霧機(丸山製作所 MSB111-A)にキョウカクコンノズル1頭口を装着し均一に散布。	処理開始時刻; 16:00	処理時の天候: 曇	当日の天候: 曇
7月 2日	背負式バッテリー噴霧機(丸山製作所 MSB111-A)にキョウカクコンノズル1頭口を装着し均一に散布。	処理開始時刻; 16:45	処理時の天候: 曇	当日の天候: 曇後晴れ
月 日				
月 日				
月 日				
月 日				
月 日				
月 日				
月 日				

(1) 展着剤 使用せず。 使用した区番号 ー 展着剤名 ー 濃度または量 ー

(2) 備考 ー

1 1. 処理方法 (下のA～G欄へは該当する処理日に「○」あるいは剤型を記載する)

区 分 処理月日	A 区	B 区	C 区	D 区	E 区	処 理 濃 度	処 理 量		処理時の生育 ステージ	処理方法 (概略)
							1 0 a当	試験区当(農薬量/散布量/面積)		
H24年 6月 5日			⑫	無処理区		⑫1000倍	2 8 1 L	⑫11.0g / 11.0L / 39.2m ²	開花結実期	茎葉散布
6月 1 2日			⑫, ⑮			⑫1000倍, ⑮1000倍	2 8 1 L	⑫11.0g / ⑮11.1mL / 11.0L / 39.2m ²	果実肥大期	茎葉散布
6月 1 9日			⑫, ⑮			⑫1000倍, ⑮1000倍	2 8 1 L	⑫11.0g / ⑮11.1mL / 11.0L / 39.2m ²	果実肥大期	茎葉散布
6月 2 6日			⑪, ⑫ ⑭, ⑮			⑪2000倍, ⑫1000倍, ⑭1000倍, ⑮1000倍	2 8 1 L	⑪5.5mL, ⑫11.0g, /11.0L/39.2m ² ⑭11.0mL, ⑮11.0mL	成熟期	茎葉散布
7月 2日			⑪, ⑫, ⑬, ⑭, ⑮			⑪2000倍, ⑫1000倍, ⑬2000倍, ⑭1000倍, ⑮1000倍	2 8 1 L	⑪5.5mL, ⑫11.0g ⑬5.5mL, ⑭11.0mL /11.0L/39.2m ² ⑮11.1mL	収穫期	茎葉散布
月 日										
月 日	⑪: エトキサゾール(ハロックフロアブル) ⑫: アクリナトリン(アテント水和剤) ⑬: シエノピラフェン(スターマイトフロアブル) ⑭: シフルメトフェン(タニサテハフロアブル) ⑮: フェンプロパトリン(ロティー乳剤)									
月 日										
月 日										
月 日										
月 日										

区 分 処理月日	処理方法の詳細、 処理時の環境条件等	処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況	
		特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する	
H24年 6月 5日	背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカクコンノズル1頭口を装着し均一に散布。	処理開始時刻; 16: 45	処理時の天候: 雨 当日の天候: 雨
6月 1 2日	背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカクコンノズル1頭口を装着し均一に散布。	処理開始時刻; 16: 30	処理時の天候: 雨 当日の天候: 雨
6月 1 9日	背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカクコンノズル1頭口を装着し均一に散布。	処理開始時刻; 10: 30	処理時の天候: 雨 当日の天候: 雨
6月 2 6日	背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカクコンノズル1頭口を装着し均一に散布。	処理開始時刻; 16: 00	処理時の天候: 曇 当日の天候: 曇
7月 2日	背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカクコンノズル1頭口を装着し均一に散布。	処理開始時刻; 16: 40	処理時の天候: 曇 当日の天候: 曇後晴れ
月 日			
月 日			
月 日			
月 日			
月 日			

(1) 展着剤 使用せず。 使用した区番号 ー 展着剤名 ー 濃度または量 ー

(2) 備考 ー

(24-グループ化 (高知) すいか)

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会 高知試験場

1 2. 試料採取 (試料番号は試料送付時に「送付カード」(別添様式) に記入したものを記載する)

区 分 採取月日	A 区 試料番号	B 区 試料番号	C 区 試料番号	D 区 試料番号	E 区 試料番号	F 区 試料番号	G 区 試料番号	試料採取時刻と天候	試料採取順 (区番号順)	試料送付量	試料送付月日
H24. 7 月 3 日	A-1	B-1	C-1	D (無処理)				採取 A: 10:50 ~ 11:00 B: 10:20 ~ 10:30 C: 9:50 ~ 10:00 D: 9:20 ~ 9:30 天候: 雨	D → C → B → A	A区: 6個 (7.2kg) B区: 6個 (6.6kg) C区: 6個 (7.3kg) D区: 12個 (12.2kg) × 1 分析	7 月 3 日
7 月 5 日	A-2	B-2	C-2					採取 A: 9:40 ~ 9:50 B: 9:30 ~ 9:40 C: 9:20 ~ 9:30 天候: 曇	C → B → A	A区: 6個 (6.7kg) B区: 6個 (6.3kg) C区: 6個 (7.1kg) × 1 分析	7 月 5 日
7 月 9 日	A-3	B-3	C-3					採取 A: 9:50 ~ 10:00 B: 9:40 ~ 9:50 C: 9:30 ~ 9:40 天候: 晴れ	C → B → A	A区: 6個 (6.6kg) B区: 6個 (6.7kg) C区: 6個 (7.1kg) × 1 分析	7 月 9 日
月 日										各区 以上 × 分析	月 日

区 分 採取月日	送付試料について (該当項目に○を付し、必要に応じてその原因を記載する)
H24. 7 月 3 日	1. 試料の大きさは (やや大きい ☒ 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は (やや早い ☒ 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
7 月 5 日	1. 試料の大きさは (やや大きい ☒ 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は (やや早い ☒ 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
7 月 9 日	1. 試料の大きさは (やや大きい ☒ 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は (やや早い ☒ 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
月 日	1. 試料の大きさは (やや大きい 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は (やや早い 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
月 日	1. 試料の大きさは (やや大きい 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は (やや早い 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
月 日	1. 試料の大きさは (やや大きい 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は (やや早い 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因

(1) 試料採取方法 使用した器具 (機械)、採取方法の詳細、
採取後乾燥等のための輸送方法を記載

処理区および無処理区試料は、試験区の境界部を除く試験区全体から鋏を用いて採取した。

採取した試料は、直ちに採取用カゴに入れた。そして場内の試料調製室まで自動車で運んだ。

(2) 採取後の調製・梱包方法 試料採取後の加工、水洗い、根等の除去、風乾、乾燥、
脱穀・脱すり等の方法、雨後の試料調製方法および試料の梱包方法を記載

果実を個別に包装紙で包んだ後、ポリエチレン袋に入れ、包装紙を敷いたダンボール箱に入れ梱包した。破損防止のためダンボール箱の底にエアークッションを敷き、ダンボール箱外の底周囲には
エアークッションを貼り付けた。また緩衝材として包装紙を使用した。ダンボール箱の内側には試験区ラベルを、外側には梱包シールを貼り梱包した。

試験区ごと別々に梱包した。

(3) 試料送付先 分析機関: 株式会社 化学分析コンサルタント

(4) 試料の輸送方法 到着日指定、温度指定、
輸送会社等

到着日を送付翌日に指定し、ヤマト運輸株式会社の冷蔵便で送付した。

(5) 備考 -

(24-グループ化(高知)すいか)

6. 過去1年間に作付けした作物および使用した農薬

平成23年春夏作：メロン

平成23年. 4/15 ガートホフ 液剤 4000倍 2L/m² 灌注,
4/21 モレスタン水和剤 2000倍, スタークル顆粒水溶剤 2000倍 散布,
5/12 モレスタン水和剤 2000倍, アトマイザ顆粒水和剤 5000倍, ロブテール水和剤 1000倍 散布,
5/17 チェス顆粒水和剤 5000倍 散布,
5/20 アファーム乳剤 1000倍 散布,
6/14 アファーム乳剤 2000倍, ベストガード水溶剤 2000倍, ベルクト水和剤 1000倍 散布,
6/20, 27, 7/4 イソピラサム(NC-233)フロアブル 1000倍 散布。

平成23年春夏作：ねぎ

平成23年. 5/13 ハチハチ乳剤 1000倍 散布,
5/25 プレオフロアブル 1000倍 散布,
6/14 ハチハチ乳剤 1000倍, プレオフロアブル 1000倍 散布,
5/9, 16, 23, 30, 6/6 ダントツ水溶液 2000倍 散布,
5/23, 30, 6/6, 13 バリタシ液剤 500倍 散布。

平成23年秋冬作：ししとう

平成23年.9/8 DC油剤 20L/10a,
 10/13 アフォーム乳剤 2000倍 散布,
 10/29 アフォーム乳剤 2000倍, スタークル顆粒水溶剤 2000倍 散布,
 11/11 アフォーム乳剤 2000倍, ベストガード® 水溶剤 1000倍 散布,
 11/20 アフォーム乳剤 2000倍, モレスタン水和剤 2000倍 散布,
 12/2 ベストガード® 水溶剤 1000倍, モレスタン水和剤 2000倍, アドマイヤー顆粒水和剤 5000倍 散布,
 10/31, 11/7, 14, 21, 28 スリックス水和剤 5000倍 散布,
 11/21, 28, 12/5 プレハゾン570アプロ 1000倍 散布。

9. 被験物質以外に使用した農薬

平成24年.4/23 ダムニル1000 1000倍, アトマヤ-顆粒水和剤 5000倍 散布 (育苗期)

5/10 ネットンエース粒剤 20kg/10a,

5/25 ハチチ乳剤 1000倍, ヘルクトフロアブル 2000倍 散布,

6/7 アファム乳剤 1000倍 散布,

6/20 スタークル顆粒水溶剤 2000倍, ヘルクトフロアブル 1000倍

(24グループ化(高知)すいか)

気 象 表

観測地点および試料調製場所：高知県香南市野市町深淵 日本植物防疫協会 高知試験場

気温：平均気温（ 1 時間毎） 降水量：日界 時

記号；○：薬剤処理日
△：試料採取日

(24年)

月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
6	気温（施設内温度）					21.9	26.7	26.3	23.8	27.5	27.1	26.2	24.6	25.5	27.3	25.1	25.7	28.6	28.0	27.2	26.7	23.5	27.6	26.3	26.1	25.2	25.2	23.8	26.8	28.4	27.2	
	降 水 量																															
	薬剤処理／試料採取					○							○							○							○					
	区記号（試料番号）					C							A, C							A, B, C							A, B, C					
7	気温（施設内温度）	30.5	29.2	27.0	28.5	28.7	27.7	29.5	29.2	29.5																						
	降 水 量																															
	薬剤処理／試料採取		○	△		△				△																						
	区記号（試料番号）		A, B, C	A-1, B-1, C-1, D		A-2, B-2, C-2				A-3, B-3, C-3																						
	気温（施設内温度）																															
	降 水 量																															
	薬剤処理／試料採取																															
	区記号（試料番号）																															
	気温（施設内温度）																															
	降 水 量																															
	薬剤処理／試料採取																															
	区記号（試料番号）																															
	気温（施設内温度）																															
	降 水 量																															
	薬剤処理／試料採取																															
	区記号（試料番号）																															

薬剤処理日（ガス抜き等を含む）、試料採取日等を記号で記入する。
また薬剤処理日へは該当する区記号、試料採取日へは該当する試料番号（試験区ハールと同様の番号）を当該欄へ記入する。
施設内気温測定には、テークカー（株式会社 ティアント・デイ おんどとりTR-71Ui）を使用した。

別紙1 試験風景

写真1. 処理区全景



写真2. 処理1回目



写真3. 処理2回目



写真4. 処理3回目



写真5. 処理4回目



写真6. 処理5回目



※採取時の大きさを撮影しなかったためデータが欠落

(試験期間 24年 5月 ～ 24年 6月)

(1) 一般名・剂型

- ①ビ・モトジソ(チェム)顆粒水中和剤, ②シモキサナル(ホライズン)ドライフロアパウル,
③スビノサト(スビ・ニュース)顆粒水中和剤, ④ホ・カサリド(カクタス)ドライフロアパウル,
⑤シアゾフ・ファスト(ランナム)フロアパウル, ⑥クルリクシメチル(ストロベ-)フロアパウル,
⑦ビ・ラクスロビソ(シグナム)WDG, ⑧ファメカサト(ホライズン)ドライフロアパウル,
⑨シフルフ・ファスト(ハンチョ)TF顆粒水中和剤, ⑩クルル・フナビル(コデツ)フロアパウル,
⑪エトクザン(バロック)フロアパウル, ⑫アクリナトリソ(アーデント)水中和剤,
⑬シモノ・ラフェン(スターマイト)フロアパウル, ⑭シフルムトフェン(カニニラフ)フロアパウル,
⑮フエン・ロバ・トリソ(ロデ-イ)乳剤

(2) 有効成分名及び成分含有率

- ①ビトメゾレン 50.0%, ②シモキサル 30.0%, ③スピノサド 25.0%,
④ボスカリト 50.0%, ⑤シアアフリミド 9.4%, ⑥クレキシシメチル 44.2%,
⑦ビラクロストロビン 6.7%, ⑧フアモキサゾ 22.5%, ⑨シフルフェナト 3.4%,
⑩クロルフェニル 10.0%, ⑪エキザゾール 10.0%, ⑫アリナトリン 3.0%,
⑬シエンピラフェン 30.0%, ⑭シムトラフェン 20.0%, ⑮エンプロボトリン 10.0%

(3) 被験物質の Lot No.

- ①SIK2AWG007, ②SAG019, ③SOK-10G, ④KIZ01, ⑤SIK-04,
⑥HJJ028, ⑦KID01, ⑧SAG019, ⑨SBA-02G, ⑩IOM01,
⑪1521N, ⑫AOF08, ⑬AOF030, ⑭2A90, ⑮NB203

2. 農作物名 すいか

品種名 ひとりじめHM

3. 試験実施機関名

一般社団法人 日本植物防疫協会 宮崎試験場

試験圃場所在地

宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 試験場内圃場

4. 試験責任者氏名

櫻井昭寿、日高正浩、舟木勇樹、福本義人、和田倉誠也、佐藤典敬

5. 土性 砂壤土

砂壤土 ————— 減水深 ————— cm/日

6. 過去1年間に作付けした作物及び使用した農薬 (別紙としても構いません)

別紙とした。

播種期、移植期、施肥の種類・量・時期、樹齡、栽植密度(畝間・株間)・株数(1/10a)、水管理、被覆資材(茶は寒れい紗番号) いちご・おうとう等の被覆時期、茶の寒れい紗・トネ栽培の被覆時期を記載する

＜施設＞

無袋

播種:平成24年3月17日(台木:かちどき2号 播種:平成24年3月13日) 定植:平成24年4月25日

畝間:2.50m 株間:0.30m 1条植 栽植本数(10aあたり):1,330株 透明マルチ 圃場は概ね平坦

施肥(10aあたり):<元肥>12/4/13 有機配合888号(8-8-8) 63kg CDU複合燐加安特S222(12-12-12) 42kg

交配:5/13~5/22

收穫期間(適期) :6/中旬～

8. 生育ステージ

試験計画書に指定された生育ステージ
を記入下さい

9. 被験物質以外に使用した農薬 (別紙としても構いません)

別紙とした。

10. 試験区

(1) 1試験区の面積および本(株)数 処理区A～C：各16.5m² (22株) 無処理区D：22.5m² (30株)

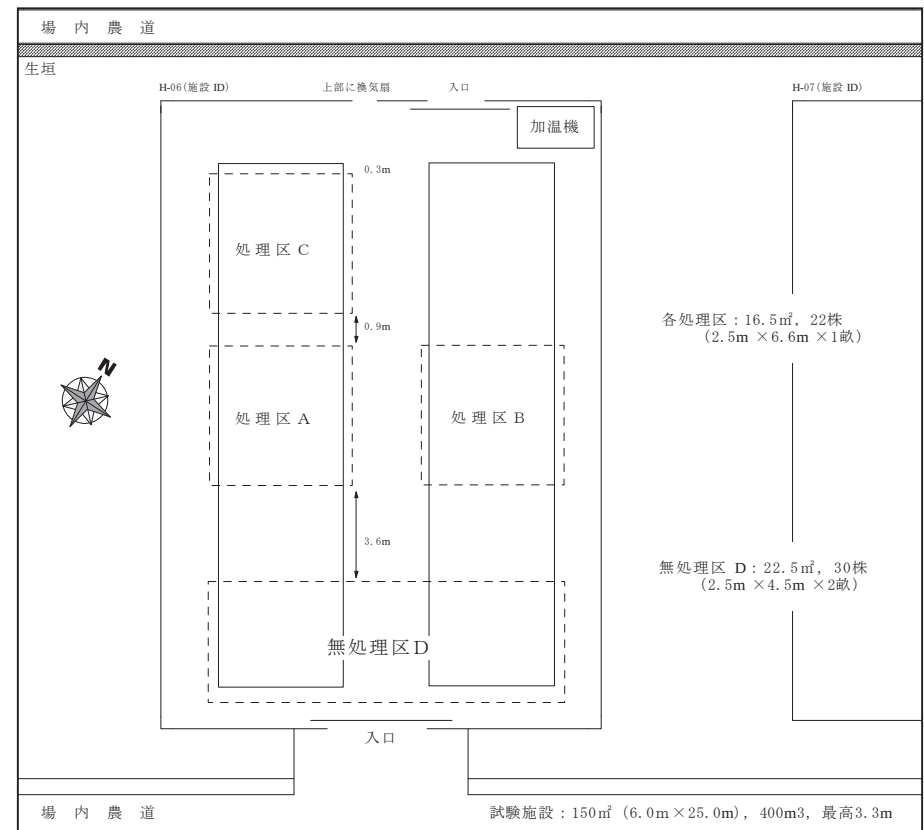
(2) 施設の場合、面積・容積・高さ 150m² (6.0m×25.0m) , 400m³, 最高3.3m

(3) 試験区の配置図(試験区全体および周辺農地等の状況がわかるように記入して下さい。記入できない場合は別紙としても構いません)

ア) 下口内の点と点を結び、処理区および無処理区の配置関係を作図して下さい。果樹1 樹は点を○で囲んで表し、必要に応じて枝の伸長方向を記載して下さい。

イ) 試験区間および試験区と無処理区との距離を記入して下さい。

ウ) 圃場の畝方向、方位および圃場の傾斜方向を記入して下さい。水田は吸水口および排水溝を記入して下さい。



別紙 1. 過去 1 年間に作付けした作物及び使用した農薬および現作において被験物質以外に使用した農薬

処理区 A ～ C および無処理区 D 共通

作物	農薬名（商品名または有効成分）	処理年	処理月	処理日	濃度又は処理量／処理方法
伏見甘長とうがらし	スピ [®] /エース顆粒水和剤	11	5	11	5000倍
	スタークル顆粒水溶剤	11	5	11	2000倍
	モレスタン水和剤	11	5	11	3000倍
	コルト顆粒水和剤	11	5	16	4000倍
	コテツフロアブル	11	5	17	1000倍
	アフーム乳剤	11	5	17	1000倍
	ライメイフロアブル	11	5	23	2000倍
	コルト顆粒水和剤	11	5	23	4000倍
	ライメイフロアブル	11	5	30	2000倍
	コルト顆粒水和剤	11	5	30	4000倍
	タ [®] コニール1000	11	5	31	1000倍
	モレスタン水和剤	11	5	31	3000倍
	アフーム乳剤	11	5	31	1000倍
	ライメイフロアブル	11	6	6	2000倍
裸地	D-D剤	11	8	2	30 ^g / _{10a} , 全面土壌処理
きゅうり	ジ [®] マンタ [®] イセン水和剤	11	9	19	600倍
	アフーム乳剤	11	9	19	1000倍
	モレスタン水和剤	11	9	19	3000倍
	ジ [®] マンタ [®] イセン水和剤	11	9	29	600倍
	タ [®] ントツ水溶剤	11	9	29	2000倍
	ランマンフロアブル	11	9	29	1000倍
	サンマイトフロアブル	11	10	3	1000倍
	モスピ [®] ラン水溶剤	11	10	3	2000倍
	アフェクトフロアブル	11	10	3	2000倍
	ジ [®] マンタ [®] イセン水和剤	11	10	6	600倍
	モレスタン水和剤	11	10	6	3000倍
	ライメイフロアブル	11	10	6	1000倍
	モスピ [®] ラン水溶剤	11	10	10	2000倍
	アフェクトフロアブル	11	10	10	2000倍
	サンマイトフロアブル	11	10	10	1000倍
	サンマイトフロアブル	11	10	17	1000倍
	アフェクトフロアブル	11	10	17	2000倍
	モスピ [®] ラン水溶剤	11	10	17	2000倍

別紙 2. 過去 1 年間に作付けした作物及び使用した農薬および現作において被験物質以外に使用した農薬

処理区 A ～ C および無処理区 D 共通

作物	農薬名（商品名または有効成分）	処理年	処理月	処理日	濃度又は処理量／処理方法
あしたば	アファーム乳剤	12	2	3	2000倍
	アミスター207プロアフル	12	2	3	2000倍
	タントツ水溶剤	12	2	3	2000倍
	スレックスくん煙顆粒	12	2	13	6g/100 m ³ くん煙
	カンタストライフロアフル	12	3	2	1000倍
	アミスター207プロアフル	12	3	2	2000倍
	アファーム乳剤	12	3	2	1000倍
	トレボン乳剤	12	3	5	2000倍
	トレボン乳剤	12	3	12	2000倍
	トレボン乳剤	12	3	19	2000倍
すいか（現作・育苗期）	アティオン乳剤	12	4	12	2000倍
	タコニール1000	12	4	12	1000倍
	モスピラン水溶剤	12	4	24	4000倍
	モレスタン水和剤	12	4	24	3000倍
すいか（現作・定植後）	モレスタン水和剤	12	5	16	3000倍
	タントツ水溶剤	12	5	16	2000倍
	アファーム乳剤	12	6	2	1000倍
	モレスタン水和剤	12	6	2	3000倍
	タントツ水溶剤	12	6	2	2000倍

1 1. 処理方法（下のA～G欄へは該当する処理日に「○」あるいは剤型を記載する）

区 分 処理月日	A区	B区	C区	D区				処 理 量		処理時の生育 ステージ	処理方法(概略)
								10a当	試験区当(農薬量/散布量/面積)		
5 月 2 0 日			⑫	無処理				222 _{リットル}	⑫5.00g/5.0%調製液を作製 16.5㎡に3.7%を散布した	果実肥大期	茎葉散布
5 月 2 4 日	①⑤							224 _{リットル}	①1.00g⑤5.0ml/5.0%調製液を作製 16.5㎡に3.7%を散布した	果実肥大期	茎葉散布
			⑮					224 _{リットル}	⑮5.0ml/5.0%調製液を作製 16.5㎡に3.7%を散布した		
5 月 2 6 日			⑫					222 _{リットル}	⑫5.00g/5.0%調製液を作製 16.5㎡に3.7%を散布した	果実肥大期	茎葉散布
5 月 3 1 日	①②④⑤			①:チェス顆粒水和剤 5000倍 ②:ホライズントライフロアブル 2500倍 ③:スピノセス顆粒水和剤 5000倍 ④:カンタストライフロアブル 1000倍 ⑤:ランマンフロアブル 1000倍 ⑥:ストロビーフロアブル 2000倍 ⑦:シグナムWDG 1500倍 ⑧:ホライズントライフロアブル 2500倍 ⑨:パンチョTF顆粒水和剤 1360倍 ⑩:コテツフロアブル 2000倍 ⑪:ハロックフロアブル 2000倍 ⑫:アデント水和剤 1000倍 ⑬:スターマイトフロアブル 2000倍 ⑭:タニサバフロアブル 1000倍 ⑮:ロティエー乳剤 1000倍	224 _{リットル}	①1.00g②2.00g④5.00g⑤5.0ml/5.0%調製液を作製 16.5㎡に3.7%を散布した	生育期	茎葉散布			
		⑥⑦⑧	218 _{リットル}		⑥3.0ml⑦4.00g⑧2.40g/6.0%調製液を作製 16.5㎡に3.6%を散布した						
		⑮	224 _{リットル}		⑮5.0ml/5.0%調製液を作製 16.5㎡に3.7%を散布した						
6 月 1 日			⑫			222 _{リットル}	⑫5.00g/5.0%調製液を作製 16.5㎡に3.7%を散布した	生育期	茎葉散布		
6 月 7 日	①②③④⑤				⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮	224 _{リットル}	①1.00g②2.00g③1.00g④5.00g⑤5.0ml/5.0%調製液を作製 16.5㎡に3.7%を散布した	生育期	茎葉散布		
		⑥⑦⑧⑨⑩	218 _{リットル}		⑥3.0ml⑦4.00g⑧2.40g⑨4.41g⑩3.0ml/6.0%調製液を作製 16.5㎡に3.6%を散布した						
			224 _{リットル}		⑪3.0ml⑫6.00g⑬6.0ml⑮6.0ml/6.0%調製液を作製 16.5㎡に3.7%を散布した						
6 月 1 3 日	①②③④⑤					224 _{リットル}	①1.00g②2.00g③1.00g④5.00g⑤5.0ml/5.0%調製液を作製 16.5㎡に3.7%を散布した	収穫初期	茎葉散布		
		⑥⑦⑧⑨⑩	218 _{リットル}		⑥3.0ml⑦4.00g⑧2.40g⑨4.41g⑩3.0ml/6.0%調製液を作製 16.5㎡に3.6%を散布した						
			224 _{リットル}		⑪3.0ml⑫6.00g⑬3.0ml⑮6.0ml/6.0%調製液を作製 16.5㎡に3.7%を散布した						

区 分 処理月日	処理方法の詳細、 処理時の環境条件等	処理時の使用器具(機械)、樹幹塗布、湛水散布時の水管理、 土壌混和時の深度、土壌水分、種子消毒時の水温・液比等	処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況 特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する
5 月 2 0 日	丸山製 背負式バッテリー噴霧機 MSB151-A＋丸山製 狭角コンノズル	茎葉散布	処理時刻 C区 PM2:32～ 天候:雨 無風 処理後の天気は雨時々曇り
5 月 2 4 日	丸山製 背負式バッテリー噴霧機 MSB151-A＋丸山製 狭角コンノズル	茎葉散布	処理時刻 A区 PM3:39～,C区 PM4:12～ 天候:晴れ 無風 処理後の天気は晴れ時々曇り
5 月 2 6 日	丸山製 背負式バッテリー噴霧機 MSB151-A＋丸山製 狭角コンノズル	茎葉散布	処理時刻 C区 AM9:02～ 天候:曇り 無風 処理後の天気は雨のち曇り
5 月 3 1 日	丸山製 背負式バッテリー噴霧機 MSB151-A＋丸山製 狭角コンノズル	茎葉散布	処理時刻 A区 AM7:08～,C区 AM7:34～,B区 AM8:40～ 天候:曇り 無風 処理後の天気は晴れのち曇り
6 月 1 日	丸山製 背負式バッテリー噴霧機 MSB151-A＋丸山製 狭角コンノズル	茎葉散布	処理時刻 C区 AM6:53～ 天候:曇り 無風 処理後の天気は晴れのち曇り
6 月 7 日	丸山製 背負式バッテリー噴霧機 MSB151-A＋丸山製 狭角コンノズル	茎葉散布	処理時刻 A区 AM6:49～,C区 AM7:21～,B区 AM9:15～ 天候:曇り 無風 処理後の天気は曇り時々雨
6 月 1 3 日	丸山製 背負式バッテリー噴霧機 MSB151-A＋丸山製 狭角コンノズル	茎葉散布	処理時刻 A区 PM3:06～,B区 PM3:35～,C区 PM3:56～ 天候:晴れ 無風 処理後の天気は晴れ

(1) 展着剤ー使用した区番号展着剤名濃度または量

(2) 備考

⑫のアデント水和剤については、試験開始から収穫適期までの日数が不足していたため、日植防本部担当者と協議の上、散布間隔を短くして処理した。

1 2. 試料採取 (試料番号は試料送付時に「送付カード」に記入したものを記載する)

区 分 採取月日	A 区 試料番号	B 区 試料番号	C 区 試料番号	D 区 試料番号				試料採取時刻と天候	試料採取順 (区番号順)	試料送付量	試料送付月日
6 月 1 4 日	A-1	B-1	C-1	D				AM7:09-7:15, 7:50-7:53, 7:57-8:00, 8:02-8:06 晴れ	D→C→B→A	各区 5kg以上かつ5個以上 (無処理区は12個)	6 月 1 4 日
6 月 1 6 日	A-2	B-2	C-2					AM9:00-9:08, 9:12-9:20, 9:24-9:30 雨	C→B→A	各区 5kg以上かつ5個以上	6 月 1 6 日
6 月 2 0 日	A-3	B-3	C-3					AM7:09-7:14, 7:18-7:22, 7:24-7:29 曇り	C→B→A	各区 5kg以上かつ5個以上	6 月 2 0 日

区 分 採取月日	送付試料について (該当項目に○を付し、必要に応じてその原因を記載する)
6 月 1 4 日	1. 試料の大きさは (通常) 2. 熟期は (通常) 3. その他 () 4. 原因
6 月 1 6 日	1. 試料の大きさは (通常) 2. 熟期は (通常) 3. その他 () 4. 原因
6 月 2 0 日	1. 試料の大きさは (通常) 2. 熟期は (通常) 3. その他 () 4. 原因

(1) 試料採取方法

使用した器具 (機械)、採取方法の詳細、
採取後乾燥のための輸送方法を記載

試験区の境界部を除き、試験区全体から任意に試料を選び、採取専用のハサミで採取した。採取した試料は試験区毎にカゴに入れた。

(2) 採取後の調製・梱包方法

試料を試料調製室まで運び梱包した。試料を個別に包装紙で包み2重にしたポリ袋に入れ、エアキャップ (小) でくるんで包装資材を敷いたダンボール箱に入れた。上部は包装紙で覆い、その上と最下部にはエアキャップ (大) を入れた。箱の内側に試験区ラベルを外側に梱包シールを貼り付けした。なお、包装資材は未使用のものをうい、試験区毎に別梱包とした。

(3) 試料送付先

分析場所：株式会社 化学分析コンサルタント

(4) 試料の輸送方法

到着日指定、温度指定、
輸送会社等

ヤマト運輸株式会社の便で、着日および冷蔵を指定し送付した。

(5) 備 考

(24 -作物グループ化・すいか)

試験場名 日植防宮崎試験場

気 象 表

観測地点および試料調製場所 観測地点：宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 一般社団法人 日本植物防疫協会 宮崎試験場内 当該試験施設

記号 ○：薬剤処理日

気温：平均気温 (1 時間毎)

降水量：日界 一 時

△：試料採取日

(2 4 年)

測定時刻 一 時

月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
5	気温 (施設内温度)																				21.0	20.9	26.4	26.8	27.0	22.4	21.8	26.9	28.5	29.3	26.6	24.8
	降 水 量																															
	薬剤処理/試料採取																				○				○		○					○
	区記号 (試料番号)																				C				A,C		C					A,B,C
6	気温 (施設内温度)	26.9	21.7	24.5	24.3	22.1	29.6	24.0	24.1	29.0	28.8	24.9	22.7	28.5	27.3	23.5	25.6	25.3	27.4	28.1	26.6	22.0	30.1									
	降 水 量																															
	薬剤処理/試料採取	○						○						○	△		△				△											
	区記号 (試料番号)	C						A,B,C						A,B,C	A,B,C,D		A,B,C				A,B,C											

薬剤処理日 (ガス抜き等を含む)、試料採取日等を記号で記入する。なお施設試験の場合は該当する記号を「施設内温度」欄へ、露地試験の場合には「気温」欄へそれぞれ記入する。

また、薬剤処理日へは該当する区記号、試料採取日へは該当する試料番号 (送付カードと同様の番号) を当該欄へ記入する。

観測機器 気温：T&DおんどとりTR-71Ui



試験施設 (H-06)



作物の様子 (7日後採取時)



作物の様子 (7日後採取時)



処理区 C の様子 (7日後採取時)



処理区 B の様子 (7日後採取時)



処理区 A の様子 (7日後採取時)



処理区 C 試料 (7 日後採取時)



処理区 C 試料 (7 日後採取時)



処理区 B 試料 (7 日後採取時)



処理区 B 試料 (7 日後採取時)



処理区 A 試料 (7 日後採取時)



処理区 A 試料 (7 日後採取時)